第272回「言葉の院外処方箋」

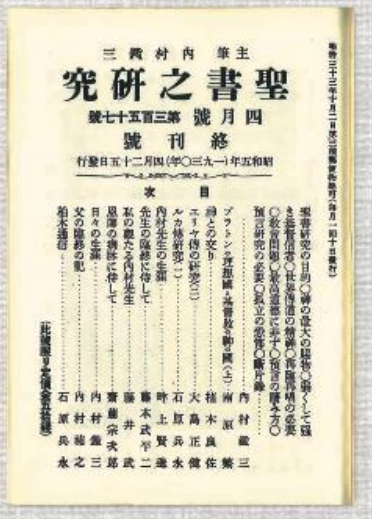
新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

『高度な専門知識と幅広い教養』 ～ 『人材育成の真髄』 ～

筆者は、2024年7月26日『病理組織診断』の業務に赴いた。『政治と宗教――南原繁再考(その一)――』(編集 南原繁研究会 編集責任者 樋野興夫 発行所 横濱大氣堂)の本が送られてきた(画像)。2023年11月3日（文化の日、学士会館において）に開催された【第20回南原繁シンポジウム『政治と宗教――南原繁再考(その一)――』（主催：南原繁研究会、後援：岩波書店、学士会、東京大学出版会、公共哲学ネットワーク、協賛：富山県立小杉高等学校同窓会）の『記録本』】である。 筆者は、2004年にスタートした南原繁研究会の3代目の代表を仰せつかっていて、今回は、『まえがき』を寄稿する機会が与えられた。

【南原繁(1889-1974)は、内村鑑三(1861-1930)と新渡戸稲造(1862-1933)から大きな影響を受けた。新渡戸稲造は、日露戦争後７年間、第一高等学校の校長を務めているが、南原繁は新渡戸稲造校長時代の一高で学び、影響を受けた。 一高時代、南原繁は『聖書之研究』を読み始め、東大法学部に入学後、内村鑑三の聖書講義に出席するようになった。 東大卒業後の南原繁は、内務官僚から学者に転進し、ヨーロッパ留学を経て東大教授となり、政治学史を担当、政治哲学を深めていき重要な著作を発表する。そして戦争中は社会的発言は意識的に控え、ひたすらに学問に打ち込む。その態度をして、『洞窟の哲人』と呼ばれたほどである。 しかし1945年3月10日の東京大空襲の前日に法学部長に就任、日本の敗色濃厚となった中で、法学部の有力教授たちと終戦工作を相談し、重臣らと接触した。 そして戦後、東大総長に就任、国家の再建を呼びかけ、戦後改革の理想を掲げて、ことに教育改革に主導的役割を果して行く。――――――
筆者は、南原繁が東大総長時代の法学部と医学部の学生であった二人の恩師から、南原繁の風貌、人となりを直接うかがうことが出来た。 南原繁は、『高度な専門知識と幅広い教養』を兼ね備え『視野狭窄にならず、複眼の思考を持ち、教養を深め、時代を読む 具眼の士』と教わった。】と『まえがき』に記述した。

本書が、【『高度な専門知識と幅広い教養』＆『視野狭窄にならず、複眼の思考を持ち、教養を深め、時代を読む 具眼の士』の『人材育成の糧』】となり、少しでも『医療者の教育の真髄に貢献』することを期待する。



主筆　内村鑑三

聖書之研究

四月號　第三百五十七號

終刊號

昭和五年四月十五日發行

目次

聖書研究の目的○神の偉大の証物○偶像のことと寶
き基督信者○信仰信徳の無神○再臨信仰の必要
○教育問題○教育道徳に非ず○宗教の種々なる方○
預言研究の必要○私立の学校○斷片雑……内村鑑三
プラトンと聖書（一）……南原繁
神との交り……植木良佐
エーケ博の研究（三）……大島正健
ルカ福音研究（一）……石原兵永
内村先生の生涯……畔上賢造
先生の臨終に侍して……藤木武平
私の觀たる内村先生……藤井武
恩師の病床に侍して……斎藤宗次郎
日々の生涯……内村美代子
女の臨終の記……内村祐之
柏木通信……石原兵永

（此號頁數四十六頁價金五拾錢）

南原繁研究会編

政治と宗教

―南原繁再考（その一）―

9784991289224

1920030024007

ISBN978-4-9912892-2-4

C0030 ¥2400E

定価：本体 2,400 円 ＋税

〔南原繁シンポジウム講演〕

南原繁の政治哲学の可能性 ―キリスト教思想の視点から―

関西学院大学神学部教授・京都大学名誉教授　芦名　定道

〔2023年東京大学ホームカミングデイ講演〕

社会保障　過去・現在・未来

一般社団法人臓器代表理事・兵庫県立大学大学院社会科学研究科特任教授　春取　照幸

〔特別寄稿〕

ある政治学者の誕生と成長

東京大学名誉教授　福田　歓一

（解説）成蹊大学名誉教授　加藤　節

発行　横濱大氣堂

南原繁研究会編

TAIKIDO

南原 繁　1889−1974（明治22−昭和49）

政治学者。1889年香川県生まれ。1914年東京帝国大学を卒業して内務省に入ったが、21年母校の助教授となり、25年教授に昇進し、主として政治学史を担任した。一高時代新渡戸稲造校長の薫陶を受け、大学時代から内村鑑三によってキリスト教の信仰に導かれた。ドイツ理想主義哲学の独創的研究を中心に政治の哲学的研究を進め、それを通じて国体という擬似宗教を批判し、その成果を『国家と宗教』(1942)、『フィヒテの政治哲学』(1959) にまとめた。45年法学部長に就任して同志と終戦工作を試み、敗戦のあと総長に選ばれて6年間在職。その間学内での演説は広く紹介されて、敗戦後の国民に大きな影響を与えた。また46年貴族院議員となって憲法審議に加わり、47年教育刷新委員会委員長となって戦後教育改革に指導的役割を果たした。49年ワシントンで全面講和を主張。72年より『南原繁著作集』(全10巻) を刊行。70年日本学士院長。74年逝去。

24-77231／政治と宗教／アートポスト／A5(148×210+17)／4C／2024.07.02／kosai